

第7章 まとめ

本技法開発では、作業管理支援をテーマに「作業管理能力におけるアセスメントの視点の整理」、「作業管理課題の作成」に力点を置いて開発を行いました。

作業管理能力におけるアセスメントの視点の整理では、オッカムの剃刀と呼ばれる「現象を説明するための仮説は少なくすべき」を意識し、BRIEFと先行研究を参考にしながら11の視点に絞り込みました。これにより、作業管理において確認される発達障害者の多様な課題の本質や全体像がつかみやすくなりました。

作業管理課題については、アセスメントの視点と連動した作業課題を作成することで受講者に見られる作業管理上の課題とその背景にある能力や要因がとらえやすくなり、効果的な対処方法の検討が可能となりました。

受講者からよせられた「(対処方法の)効果が分かれば自信をもって、行動をルーティン化できます。効果が分からないと、よい行動も習慣化できないし、そもそもすぐに忘れてしまいます」という感想は、支援者が対処方法の有効性についてアセスメントの視点に基づき理論的に説明することが可能になると、受講者の納得感を引き出し、対処方法の継続的な活用につなげられることを示唆していると考えられます。

作業管理課題は作業管理支援における中核的な要素です。しかしながら、作業管理課題は5日間で最大7種の課題の完了を目指す構成であるため、支援者には受講者の作業能率などを考慮した複雑な課題設定と精度の高いアセスメントの継続が求められます。今回作業管理課題にあわせて開発した「タスクる(支援者用課題設定補助ツール)」は各課題に必要な作業量の計算や教示文の作成を自動的に行う機能があり、作業管理課題の実施に付随する負担を大きく軽減しています。

また、「行動観察シート」を活用することで5日間にわたる受講者の作業管理状況を統一されたアセスメントの視点から細やかに観察・記録することが可能となります。さらに行動観察シートと同じ構成の「ふりかえりシート」を受講者が活用することで、共通の視点から作業管理課題の実施結果を振り返ることができ、支援者、受講者間における課題の共有が図りやすくなっています。

今回、上述した開発物で構成される作業管理支援は、発達障害者自身の作業管理能力の向上に有用であることを確認することができました。

最後に、作業管理支援における鍵概念とした実行機能は、目標志向的行動にあふれた職業生活を円滑に送る上で重要な存在です。また、神経心理学、認知心理学、臨床心理学など幅広い分野で活発な研究が行われている概念でもあります。今後、多分野も含めて蓄積される研究知見は、作業管理支援における有益なリソースになるものと期待します。

本報告書が多くの支援者のみなさまによって活用され、発達障害者の作業管理能力の向上に役立つことを期待しています。